

令和元年度 第2回
岩見沢市地域公共交通活性化協議会

資料

令和2年1月14日（火）
岩見沢市企画財政部企画室

報告（1）JR室蘭線の存続に向けた取組みについて

沿線5市町で構成する「JR室蘭線活性化連絡協議会」において、主に利用促進に向けた協議を継続するとともに、関係団体と連携するなどして、以下のような取組みを進めた。

（1）北海道が実施する臨時的かつ緊急的な支援への対応について

【概要】

北海道は、JR室蘭線を含む8線区の維持に係る緊急的かつ臨時的な支援として、令和元年度において2億円の支援を行う予算措置を行った（令和元年6月補正）ところであり、このうちの3割にあたる60,000千円は、沿線自治体からの負担金で拠出することとした。

■ JR北海道への緊急的かつ臨時的な支援（2億円）の拠出内訳について

北海道：沿線自治体 = 7：3 （単位：千円）

合計	北海道	沿線自治体
200,000	140,000	60,000

沿線自治体	宗谷	石北	花咲	釧網	富良野	根室	室蘭	日高
60,000	7,900	13,200	6,150	8,900	6,900	4,750	7,850	4,350

【対応】

北海道による支援の趣旨を精査した結果、岩見沢市としても必要な支援であることを確認したことから、負担金を支出することとした。具体的な支援額については、線区ごとの負担額と各市町の支援額の算定方法に関する考え方（均等割・人口割等）が北海道より示され（室蘭線：7,850千円）、これを受け沿線5市町で構成するJR室蘭線活性化協議会（令和元年5月29日：由仁町）での協議を経て、各市町の支援額を調整した。

室蘭線	苫小牧市	安平町	由仁町	栗山町	岩見沢市
7,850	1,850	1,400	1,100	1,300	2,200

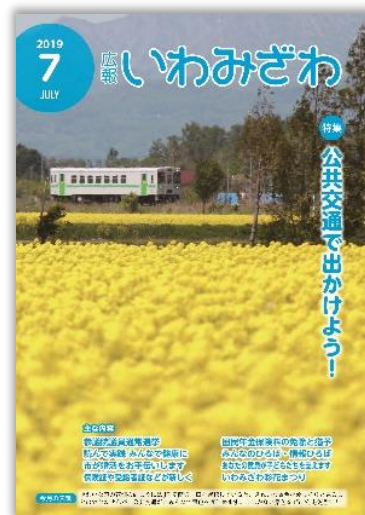
(2) 利用促進に向けた広報活動等について



室蘭線公式FaceBook開設



商工会議所による室蘭線
利用促進ポスター作成事
業への支援



広報いわみざわ7月号へ特集の掲載



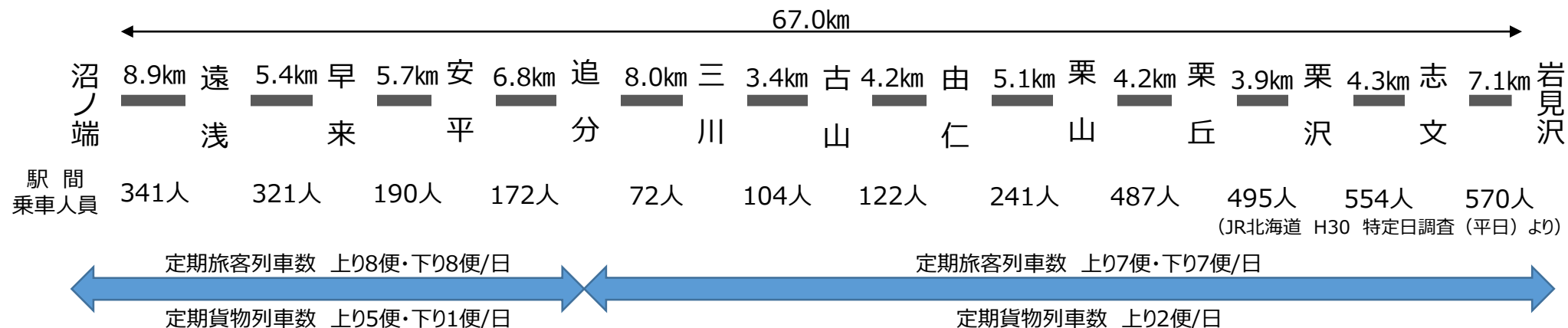
志文・栗沢・栗丘の各駅に、
北海道日本ハムファイターズ
応援大使等身大パネル設置

(3) 北海道観光列車モニターツアー

北海道鉄道活性化協議会が主催となり、道内観光列車の可能性を探ることを目的としたモニターツアーを実施 (R1.11.30)。
JR室蘭線の岩見沢-苫小牧間において午前・午後の2便運行した。
室蘭線沿線5市町が、道内外計37名のツアー参加者に対して、住民によるおもてなしや、地域の特産品の 観光地を案内した。
岩見沢駅では教育大学生による演奏をはじめ、天狗まんじゅう、とり釜飯、ウェルカムワインを提供した。



(4) JR室蘭線 概況



【線区の概況】

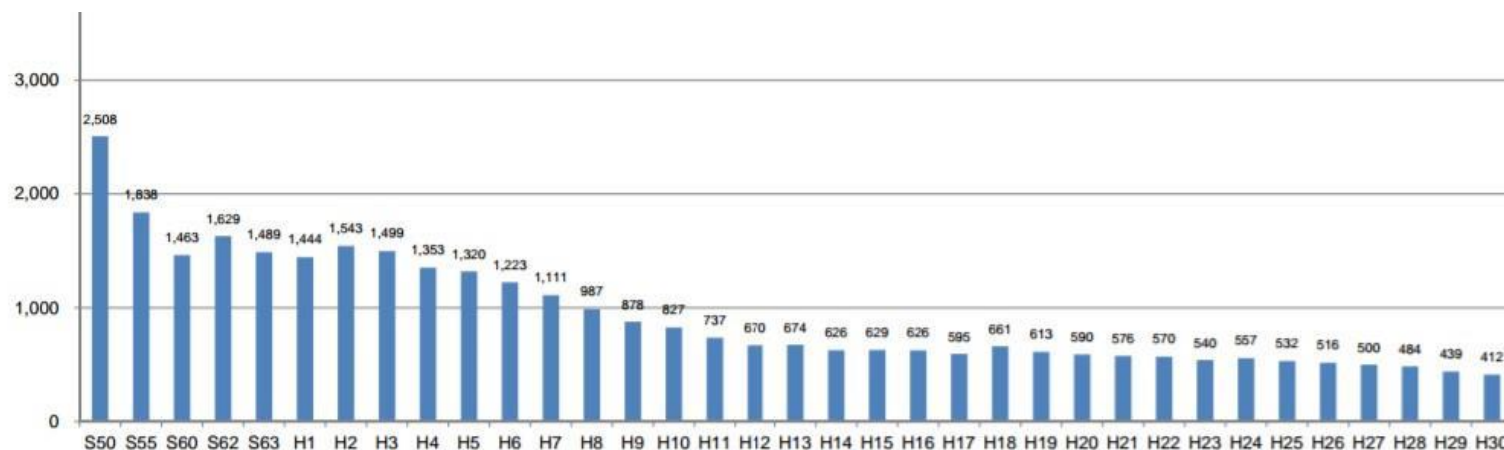
営業キロ数 67.0km
 駅数 13駅 (うち有人駅2駅)
 橋梁数 48か所
 トンネル 1か所
 輸送密度 412人 (H30年度)
 営業係数 1,146円 (H30年度)

JR室蘭線 (沼ノ端～岩見沢) 収支状況

(JR北海道 H30年度)



※端数処理のため、差引額が一致しない



※輸送密度=旅客営業キロ1kmあたりの1日平均旅客輸送人員をいう。線区輸送人キロ÷営業キロ÷日数

※営業係数=100円の営業収益を得るために必要な営業費用の指数

路線バスの利用促進に向けた取り組み

バスの絵募集 企画

募集：R1.7.22～8.30
 展示：R1.9.14～10.14

岩見沢市内の小学生を対象にバスの絵を募集し、応募作品を市内バス路線を運行する車内に展示した。バスの日（9月20日）に合わせて実施。

画用紙を市役所本庁舎、北村・栗沢両支所、各サービスセンター、バスターミナルにて配付。市HPほか、道新、プレス空知により作品募集を周知した。

計29枚の作品が集まり、期間中バス車内をにぎやかにしてくれた。

【学校別応募作品数】（単位：枚）

学校名	枚数
中央小	12
不明	3
北真小	2
第二小	2
日の出小	2
岩見沢小	2
その他	6
合計	29

★その他
 大谷地小、北村小、志文小、南小、第一小、めぐみ幼稚園（各1枚ずつ）

2019 バスの日 特別企画
みんなでバスを埋め尽くせ！ バスの絵 募集♪

★ 概要
 ・岩見沢市内の小学生を対象に、バスに関する絵を募集します。
 ・応募いただいた絵は、「バスの日」（9月20日）を含む1ヶ月間岩見沢市内を走るバスの車内に展示します。

★ 応募資格
 岩見沢市内の小学校に通う児童

★ 募集期間
 2019年7月22日（月）～ 8月30日（金）

★ 募集する絵について
 ① 用紙・サイズ
 画用紙 B3版横（縦364mm × 横515mm）
 ※ 応募用の画用紙は、7月22日（月）から、市役所などで配布します（詳しい配布場所は裏面）
 ② 内容
 バスに関する絵（次のようなもの）
 ・バスの車両を描いたもの
 ・バスに関する仕事をする人を描いたもの
 ・バスで出掛けた思い出について描いたもの
 ・その他、バスにまつわる絵とわかるようなもの



「バスの日」ってなに？
 毎年9月20日はバスの日です。
 これは、今から100年以上前の1903年（明治36年）9月20日、日本で初めて京都市で乗合自動車（バス）が走ったとされる日に由来しています。

● 主催 岩見沢市地域公共交通活性化協議会
 応募・お問い合わせは事務局まで ～ 岩見沢市役所 企画室 ☎0126-23-4111（内線421）

作品募集チラシ



バス車内展示の様子



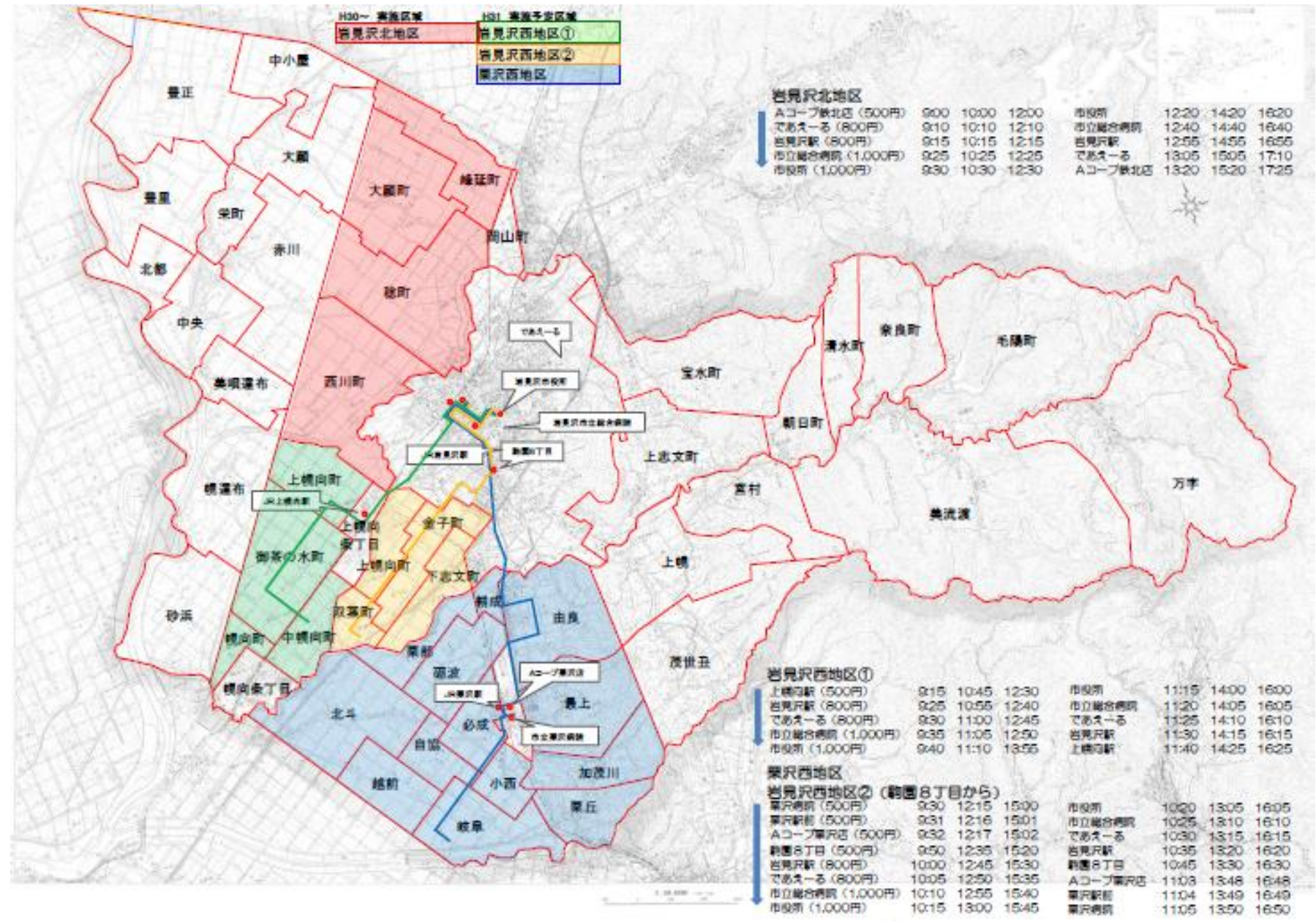
プレス空知（R1.9.18）

バス路線 収支等の状況(中央バス提供資料より)

未確定情報を含むため非公開

報告 (3) デマンド型乗合タクシーの運行状況について

交通空白地区対策として、H30.4.10から岩見沢北地区において運行を開始したデマンド型乗合タクシーについて、R1.7.1から、岩見沢西地区（①、②）、栗沢西地区に運行エリアを拡大した。現在までの運行地域は以下のとおり。



報告 (3) デマンド型乗合タクシーの運行状況について

【各地区 月別運行状況】

地区	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
岩見沢 北地区	運行便数	便	10	3	7	5	2	4	2	11	11	55
	利用者数	人	10	3	7	5	2	4	2	11	13	57
	利用者負担額	円	8,000	2,600	5,600	4,400	1,600	3,400	1,600	8,400	10,500	46,100
	市負担額	円	23,900	6,890	16,090	10,510	4,540	7,280	4,540	21,130	16,070	110,950
岩見沢 西地区 ①	運行便数	便	－	－	－	1	0	0	0	0	0	1
	利用者数	人	－	－	－	1	0	0	0	0	0	1
	利用者負担額	円	－	－	－	800	0	0	0	0	0	800
	市負担額	円	－	－	－	1,670	0	0	0	0	0	1,670
岩見沢 西地区 ②	運行便数	便	－	－	－	2	0	0	0	1	0	3
	利用者数	人	－	－	－	2	0	0	0	1	0	3
	利用者負担額	円	－	－	－	2,000	0	0	0	1,000	0	3,000
	市負担額	円	－	－	－	1,420	0	0	0	470	0	1,890
栗沢西 地区	運行便数	便	－	－	－	14	10	7	5	5	24	65
	利用者数	人	－	－	－	17	12	7	5	5	25	71
	利用者負担額	円	－	－	－	9,600	7,200	5,400	3,800	2,500	15,800	44,300
	市負担額	円	－	－	－	19,060	22,540	15,810	7,310	4,450	28,760	97,900
全体	運行便数	便	10	3	7	22	12	11	7	17	35	124
	利用者数	人	10	3	7	25	14	11	7	17	38	132
	利用者負担額	円	8,000	2,600	5,600	16,800	8,800	8,800	5,400	11,900	26,300	94,200
	市負担額	円	23,900	6,890	16,090	32,660	27,080	23,090	11,850	26,050	44,830	212,440

報告（3） デマンド型乗合タクシーの運行状況について

【地区・乗降場所別利用者数】

(単位：人)

地区	項目	市役所	であえーる	岩見沢駅	市立病院	栗沢病院	Aコープ栗沢	栗沢駅	Aコープ鉄北	上幌向駅	駒園8丁目	合計
岩見沢北地区	往路	0	21	5	5	0	0	0	2	0	0	33
	復路	0	20	2	1	0	0	0	1	0	0	24
岩見沢西地区①	往路	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	復路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩見沢西地区②	往路	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	復路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗沢西地区	往路	0	0	8	6	18	15	1	0	0	0	48
	復路	0	0	3	5	8	7	0	0	0	0	23
全体	往路	3	21	14	11	18	15	1	2	0	0	85
	復路	0	20	5	6	8	7	0	1	0	0	47

【居住地別利用者数】(単位：人)

居住地	往路	復路	計
大願町	25	21	46
峰延町	2	0	2
西川町	2	0	2
稔町	4	3	7
御茶の水町	1	0	1
上幌向	3	0	3
栗部	16	6	22
自協	8	3	11
砺波	3	2	5
北斗	13	6	19
最上	3	2	5
越前	3	2	5
必成	2	2	4
全体	85	47	132

※令和元年12月末現在

議事（1） 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

評価対象事業：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
 評価対象期間：平成30年10月1日～令和元年9月30日

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
北海道中央バス（株）	かえで団地循環線 日の出台・栄町循環線 鉄北循環線 南町・春日循環線 幌向線	新規	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 輸送量が目標に及ばなかったものの、運休や遅延等の利便性の低下要素も少なく、効率的で安定した運行といった路線再編の効果があつた。 (市内バス路線総乗車人数) 目標値（R2）：1,200,000人/年 実績値（R1）：810,563人/年	今年度については、児童に路線バスを身近に感じてもらうとともに、路線バスの利用機会の少ない保護者層などの取込みを目的として、小学生から募集したバスの絵を車内に1か月間掲示する取組みを実施した。 今後とも、バスの利用価値を向上させる利用促進策をすすめるとともに、人口減少に対応した地域公共交通のあり方を模索していく必要がある。

地域の交通の目指す姿（事業実施の目的・必要性）

岩見沢市は北海道の中西部に位置する、空知管内の中心都市であり、人口は80,410人（令和元年12月末現在）、総面積は481.02km²で、市域の西部には平野が広がり、東部には低山性の山々が連なっている。また札幌市と旭川市を結ぶ国道12号、高速自動車道が通っており、札幌市まで車で約45分、新千歳空港を有する千歳市まで約60分の圏域である。

他の地方都市と同じように岩見沢市においても人口減少や少子高齢化、自家用車の普及などによる路線バス利用者の減少が続いており、路線の維持確保のための市補助金の負担も増加していることから、平成27年1月に地域公共交通活性化協議会を設置し、同年4月に「岩見沢市生活交通ビジョン」、平成28年6月に「地域公共交通網形成計画」、平成29年6月には「地域公共交通再編実施計画」（同年9月8日に国土交通省の認定）を策定し、平成29年10月1日に主要な生活交通手段であるバス路線（北海道中央バス）の見直しを行った。

岩見沢市の公共交通においては、札幌や旭川と結ぶJR函館本線、苫小牧と結ぶJR室蘭線、南空知の他市につながる地域幹線系統を幹線として、それらと接続するフィーダー系統（市内：路線型）やデマンド型乗合タクシーなどの新たな公共交通を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。

岩見沢ターミナル発着路線バス 路線別便数一覧

未確定情報を含むため非公開